

# "両住まい"カップルの居住支援に関する研究

○久保加津代(大分大)

**目的** ①"両住まい"(対等平等な夫婦の2カ所居住)カップルの「居住実態と居住ニーズ」をあきらかにし、②"両住まい"カップルの居住支援のあり方を考えることがこの研究の目的である。今後、多様な職住関係・家族の住まい方が増えていくと考えられるので、居住支援策を具体的に考えることは意義がある。ただ、現状では、"両住まい"カップルの実態も多様で、概容を把握することさえ容易ではないので、まず、女性研究者52名を対象に、アンケート調査を実施した。

**調査の方法** ○調査対象 大学につとめる"両住まい"女性研究者 52名 ○調査時期 1998.10.～1999.12. ○調査票の回収状況 有効回収票 30 (有効回収票率 57.7%)

**結果** 1. "両住まい"というが、実際にはみんな「通っている」(「週に2日くらい」はカップルですごしている)(負担は膨大)。2. 「子どもがいる」「持ち家」が拠点になっている。3. 現状では、社会的支援がほとんどなく、自助努力(友人・知人たより)している(子育て期の困難は大きい)。4. 社会的支援を望んでいない(望めない=交通費の支給や家事・保育・介護支援、以外のイメージがわからない)。5. 「電話」「メール」などを活用してコミュニケーションをはかっている。